

御神木 ヴァイオリンに 紡がれた物語

ストーリー

神話のふるさと・宮崎県。『古事記』や『日本書紀』に記された神々の物語にまつわる地が点在し、その神々は主祭神として各地の神社で大切に祀られ、御神木とともに時代の移り変わりを静かに見守っています。

息吹く刻、空と大地と人々が重なり合い
彼方の時を綴り
彼方へ時を紡ぐ

物語1 御神木でヴァイオリン!?

そんな突拍子もないアイデアを思いついたのは、宮崎県出身のヴァイオリニスト・山内達哉氏。

「きっかけは、演奏活動とある神社を訪れたときに、樹齢何百年という御神木を見てその偉大さに感動したことでした。生まれ育った宮崎のために何か恩返しができないかと考えていたこともあり、御神木でヴァイオリンを作ってみたらどうだろうと思いました」

物語2 込められた願い

自然災害で倒れるなどしてその役目を終えた御神木は、きれいに裁断されて保存されている。一方で、ヴァイオリンの寿命は約400年。御神木がヴァイオリンとして生まれ変われば、世界中の人々に音色を届けるという新たな歴史を刻むことができる。さらにそこには、当団体の趣旨「未来を担う子どもたちに音楽などの文化芸術に触れることで豊かな人生を歩んでほしい」という願いも込められている。

物語3 導かれる想いと出逢い

2020年冬、山内氏は高千穂町の『高千穂神社』と、高原町の『狭野神社』に向かった。どちらの神社も趣旨を説明すると「そんな話は初めてだ」と驚いた様子だったが、快く賛同してくれた。高千穂神社では、裏板に使用する『ケヤキ』を、狭野神社では表板に使用する『狭野杉』をお預かりした。それぞれお祓いを受け、手にした板は「とても畏れ多い感じがした」と振り返る。



物語4 2つの説がある天孫降臨の地

この2つの神社を選んだのには理由がある。日本神話の主神・天照大神(アマテラスオオミカミ)が、孫の瓊瓊杵尊(ニニギノミコト)を神々が住む高天原(たかまがはら)から地上に降臨させ、統治させたという『天孫降臨神話』。その舞台となった地は『高千穂』として有名だが、宮崎には県北部の高千穂町と南西部の霧島・高千穂峰の2つの

高千穂がある。『日本書紀』では霧島・高千穂峰、『日向国風土記』では高千穂町の記述があり、どちらが天孫降臨の地なのか古くから議論されている。それぞれの地の御神木をヴァイオリンとしてひとつにすることで、果たしてどんな音色が生まれるのだろうか。



物語5 二人の巨匠が手掛けたヴァイオリン

製作を手掛けたのは、中澤宗幸氏。ヴァイオリンドクターとして世界中のヴァイオリニストの演奏を支えている。御神木ヴァイオリンの製作依頼を受け、「最後の使命だと思って、魂を込めて作ります」と語った。御神木は一般的なヴァイオリンに使われている材質と異なるため、製作は困難を極めた。中澤氏は、2年以上の歳月をかけてついに完成させた。

御神木ヴァイオリンの裏板には、『天孫降臨』をテーマにした絵が描かれている。描いたのは、日本を拠点に創作活動をしているフランス人の画家・マークエステル氏。日本神話をモチーフにした作品を描き、全国の神社に奉納している。県内でも高千穂神社・狭野神社をはじめ、各地の神社に作品を奉納するなど縁が深い。そんなマークエステル氏の描いた作品が、御神木ヴァイオリンの音色に彩りを添える。



物語6 宮崎から日本、そして世界へ

多くの人たちの思いや技術、そして遙かな時を経て、神々の導きにて誕生した御神木ヴァイオリン。

今後は、宮崎だけでなく全国各地の神社の祭事や、地元のお祭りなどを通して、地元のヴァイオリニストに演奏してもらう予定です。ヴァイオリンとしての役目を全うするまでの数百年、神話のふるさと・宮崎で誕生した数々の物語とともに、世界中でその音色を響かせ続けられるよう全力を尽くす所存です。

皆様の温かいご支援をどうぞよろしく願いいたします。



ヴァイオリン製作者・修復家

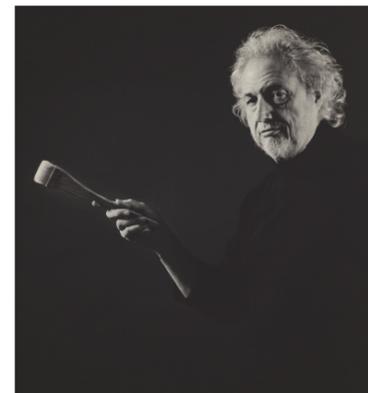
中澤 宗幸 MUNEYUKI NAKAZAWA

1980年、東京と長野にアトリエ(現:株式会社日本ヴァイオリン)を構え、世界中の学校や博物館などからの依頼を中心とした名器の修復や楽器メンテナンスをする傍ら、各地の音楽祭にて音楽プロデューサーを務める。東日本大震災後、TSUNAMIヴァイオリンを製作し「千の音色でつなぐ絆」プロジェクトを展開。2004年カンヌ国際芸術祭(日仏現代芸術祭)弦楽器の部コートダジュール国際芸術賞受賞。2011年兵庫県知事より文化功労賞を受賞。2014年クアアチア大使館から芸術文化賞を受賞。



御神木ヴァイオリン

JINGI 紹介動画▶



画家

マークエステル MARCESTEL

1943年パリ、800年続く名門に生まれる。両親が開業した「パナノレイホテル」、「カップエステルホテル」に住み、地中海の美しい自然環境の中で時を過ごした。滞在客の中には世界各国の著名人が多く、米大統領だったケネディ家、フランス大統領ボンビドゥー家、映画俳優ではローレンス・オリビエ卿、チャーリー・チャップリン、グレタ・ガルボ、さらにモナコの故グレース王妃といった特別の人々も青春時代の親しい存在であった。また、近くに住んでいた世界的画家マルク・シャガールとも個人的な知遇を得る。1970年の初来日以来、日本神話「古事記」の世界に強く惹かれる。伊勢神宮、出羽三山神社より奉納の依頼を受けたことを機に作品奉納は、現在194社を数える。

音楽人 山内 達哉 TATSUYA YAMAUCHI

宮崎県出身の音楽人。「日本の心」と題し、日本の歴史や風景をテーマにヴァイオリンと尺八との共演スタイルで全国を旅しながら、作曲・演奏活動を行う。日本のみならず世界中を旅する音楽家でもあり、世界最大の芸術祭、「スコットランドフリンジフェスティバル」の出演をきっかけに、日本国総領事館主催公演を多数行う。(イギリス・ドイツ・モンゴル・韓国・中国等)海外での演奏活動は「外務省在外公館長表彰」「第一回埼玉グローバル賞」にて表彰される。音楽を通じた町おこしにも力を注ぎ、全国各地の音楽祭のプロデュース、埼玉県親善大使・宮崎県みやこんじょ大使・兵庫県朝来市観光大使、桐朋学園芸術短期大学作曲非常勤講師。近年では、KADOKAWA映画 堤幸彦監督作品「望み」、佐々木蔵之介主演ドラマ「ミヤコが京都にやって来た!」劇伴音楽、ミラノコレクション楽曲を手がけるなど、多方面で活躍中。

2022年10月16日(日)宮崎県立芸術劇場にて開催された
御神木ヴァイオリン初お披露目コンサートのダイジェスト映像をご覧ください。



神話の里 文化・芸術育成 Association

未来を担う子どもたちに、質の高い文化芸術に触れる機会を増やし、豊かな感受性の畑を耕す手助けをしたいと考える同志により神話の里文化・芸術育成アソシエーションを設立。さまざまなジャンルのアーティストと音楽イベントやコンサートなどを行い、宮崎の文化芸術を発信している。



神話の里 文化・芸術育成Association発案者

代表 岩満 嵩介 TAKAYUKI IWAMITSU

皆様こんにちは。神話の里 文化・芸術育成Association代表の岩満嵩介と申します。今の自分があるのは、「宮崎に愛され、宮崎に育ててもらえたから」と考え、宮崎県をさらに盛り上げ、故郷に恩返しをしたいという思いから、未来を担う子供たちに、少しでも芸術に触れる機会を作りたいと、さまざまなイベントの開催をしてみました。新型コロナウイルスの影響で、なかなか音楽に触れ機会がない子ども達にも、インターネットを通じて、オンライン講座を開くなど子ども達にもっと本格的な体験の場を提供していきたいと考えています。そのために、地元や全国の仲間達と連携して音楽を体験する機会を増やし、子供達の感受性の畑を育てたいという思いから、同じ考えを持った同志が集まり、団体を設立しました。それが神話の里 文化・芸術育成Associationです。皆様の温かいご支援をどうかよろしく願いいたします。



2022夏、神話の里 Jr. オーケストラ設立